

夫來新報

明治三十一年十一月二十三日
 (可認書信遞日七十二月三年五十二治明)

くろ開會中、諒員を旅宿に勸開せしむるも、一回もなし誠に迷惑せり云々と語りたり

中央鐵道隧道

崩壞の詳報

中央鐵道線中なる尾張東春日井郡玉川村大字玉野字外ノ原小字隠れ山第五號隧道(即ち尾張美濃兩國境界を西に距る十町許の處)は長五十間餘にして其内部煉瓦積立工事中去二十一日午後零時五十分とも覺し、頃東坑門山上の巖石俄然崩壞し折しも坑内に働き居りし坑夫五名土方一名巖石の下に埋没せられたり而して瓦壞せし長さは五間程にして巖石面積は五六十坪計りにして巨大なる巖石堆積し人力を以て取除くる能はざるに付き詮方なく「メイト」三百發餘を用ひて破砕し入夫三百名を晝夜間斷なく役使して廿五日午後一時頃即五日目に至り漸く六人の屍体を堀り出す事を得たり其屍は肋骨脊髓を碎かれ或は頭面に巖石嵌入する等實に目も當てられぬ慘狀なりと云ふ而して其死者は

- 石川縣金澤市村木町
 - 三河北設樂郡上津具村
 - 東京市下谷區坂本町
 - 石川縣能美郡邦造村
 - 福井縣南條郡鏡村
 - 尾張海東郡福屋村新茶屋
- 右に付き、實地取調の爲め出張中なりし愛知縣保安課長、は昨日歸名せり

